様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年　6 月 14 日現在

機関番号：16301
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2009～2011
課題番号：21520226
研究課題名（和文）中世後期成立の百科全書的テキストに関する基礎的研究

研究課題名（英文）Fundamental studies on encyclopedic text written in late Middle Ages in Japan

研究代表者
小助川　元太（KOSUKEGAWA GANTA）
愛媛大学・教育学部・准教授
研究者番号：30353311

研究成果の概要（和文）：

本研究では、室町時代後期から安土桃山時代にかけての、いわゆる乱世における政治や文化を支えた知の問題を、その時代に制作された百科全書的テキスト群の生成と享受という視点から解明するべく、いくつかの作品を取り上げて、基礎的調査を行った。具体的な成果としては、以下の 4 点が挙げられる。

⑴ 江戸初期成立の、狩野一渓編の画学全書『後素集』が、中国の百科全書『事文類聚』を和訳した、伝一条兼良編の漢故事説話集『語園』を利用している可能性が高いことを明らかにした。

⑵ 戦国期成立の百科全書的編纂物『月庵酔醒記』が、政道に必要な教訓や知識と諸芸に関する雑学的な知識とを同一の地平線上にあるものと捉え、戦国武将に必要な知識の集積として編まれた可能性が高いことを明らかにした。

⑶ 『壒嚢鈔』の編者行誉の著述活動（自伝・『八幡愚童訓』の書写）に注目し、中世を代表する百科事典が生まれた背景を明らかにすべく調査を進めた。

⑷ 同時代に成立したと思われる、百科全書的特徴を持つ『源平盛衰記』が、いかなる論理のもとに、既成の平家物語を再編していったのかという問題を、いくつかの場面を分析しながら明らかにしてきた。

研究成果の概要（英文）：

I studied the issue supported the politics and culture of medieval Japan "wisdom" and "knowledge", whether it has spread among the people in what way. More specifically, the target group as encyclopedic text has been produced in the Middle Ages, was carried out basic research. Accomplishments of the research is the following four points.

⑴ Found that the articles are written in the "GOEN" to "KOSOSYU" I have been a number of quotes.

⑵ I discovered that in, "GETSUANSUISEIKI" knowledge of politics and art and culture are treated as having the same value.

⑶ I investigated the other writings of author GYOYO "AINOUSYO" wrote.

⑷ I analyzed the method of restructuring story by the author of "GENPEIJOSUIKI".

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2009 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2010 年度	800,000	240,000	1,040,000
2011 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
年度			
年度			
総　計	3,000,000	900,000	3,900,000

研究分野：文学
科研費の分科・細目：文学・日本文学
キーワード：中世後期・百科全書

１．研究開始当初の背景

申請者はこれまで、中世を代表する百科事典『壒嚢鈔』や戦国武将による百科全書的編纂物である『月庵酔醒記』、漢画の享受を背景として編述された画学全書『後素集』を主たる研究対象とし、中世後期から近世初期にかけて、和漢の知識がどのような形で享受され拡がっていったのかという問題を考察してきた。申請者が主に研究対象としてきたテキストは、編者の立場や成立した時期が異なるため、これまでは、個々のテキストの問題を無理に関連づけることをせずに研究を進めてきた。

だが、研究が深まるにつれて、編者の思惑や目的は異なるものの、それらのテキストがその根本において、ある共通性を持っていることが分かってきた。それをひとことでいうと、「中世日本社会に特有の知的営為を共通の背景として成り立っている」ということである。

そこで本研究では、百科全書的性格を持つテキストのありかたを、中世特有の一つの表現様式と捉え、中世後期に成立したこれらのテキスト群に共通する特徴を可能な限り洗い出し、整理することによって、従来ほとんど顧みられることのなかったこれらの「作品」の再評価を行いたいと考えた。

２．研究の目的

本研究の目的は、中世後期に成立した百科全書的テキスト群に共通する特徴を可能な限り洗い出し、整理することによって、従来ほとんど顧みられることのなかったこれらの「作品」の再評価を行うことにある。そこで，本研究においては，以下の３項目を柱とする。

⑴中国の類書の影響と日本独自の編纂方法についての研究

中国の類書の記事や配列との比較を行うことにより、その影響関係を整理し、中世の知識人が中国文化の何を取り入れ、何を加えていったのかという根源的な問題を明らかにする。具体的な作業としては、まずは本研究の中心となるテキストであり、また最も情報量の多いテキストである『壒嚢鈔』本文のデータベース作成を行うことから始める。

⑵同時代の漢籍故事受容との関係についての研究

漢籍を源とする故事、いわゆる漢籍故事は、古代から日本の文学や思想に影響を与えてきたが、中世後期に至り、禅宗の文化が輸入されることによって、鎌倉時代までの文学作品に見られるものとは明らかにその質が変化している。本研究では、百科全書的テキストを生み出す行為と切り離せない重要な問

題として、それらにおける漢籍故事の受容と展開の問題を、同時代に成立した注釈書や享受された軍記物語、絵画資料などとの比較を通して明らかにする。

⑶雑談との関係についての研究

百科全書的テキスト成立の背景には、中世後期に知識人や大名を中心に行われた雑談があったものと思われる。その雑談が中世後期の社会において、どのような役割を果たしていたのかという問題については、まだ十分には解明されていない。百科全書的テキスト全般を俯瞰し、また、同時代の日記記事や教訓書などの周辺資料などを付き合わせることによって、その問題を明らかにしたい。

３．研究の方法

初年度は,前記の研究目的のもとに,基礎的調査を進めたが,時間的な制約や最終的な成果発表の都合から,2年目よりテーマをある程度絞り込んで調査を進める方向に切り替えた。具体的な研究方法と手順は以下のとおりである。

⑴　中国類書『事文類聚』と『後素集』の比較

五山の禅僧に影響を与えた中国の類書『事文類聚』に注目し、やはり禅林文化の影響下にある『後素集』の配列や説話を比較した。

⑵　『月庵酔醒記』と『節用集』や刀剣伝書、金句集などの関係の調査

『月庵酔醒記』には、雑談との関わりの深い、名所や名物などの羅列が見られる。その中には、『永禄本節用集』や『文明本節用集』などと共通する記事がある。それら中世後期の節用集の記事や、それらが基にした資料を調査した。

⑶　『源平盛衰記』の平家物語再編方法の分析

『源平盛衰記』の中には、中世後期の百科全書テキストが取り上げる倫理観や政道論が随所に見られ、また、漢故事説話や金言を数多く引用したり、物語の流れを分断するような知識の羅列をするところなど、他の百科事典的テキストと同一の基盤から生まれたものと考えられる。『源平盛衰記』の平家物語再編方法を分析することで、百科全書テキストが数多く誕生する思想的な基盤を明らかにしようと試みた。

⑷　『壒嚢鈔』のデータベース化作業

中世を代表する百科事典『壒嚢鈔』の本文を電子化する作業を行った。ただし、他の作業にかなり時間を取られたため、思うようには進まなかった。

⑸　『壒嚢鈔』編者の知的基盤に関する調査

中世を代表する百科事典『壒嚢鈔』の編者の知的基盤を明らかにする研究の一環として、行誉の自伝『僧某年譜』の問題や、行誉書写本『八幡愚童訓』の翻刻作業とその考察を行った。

⑹　研究成果の発表

上記の基礎調査に基づいて、2 年目には伝承文学研究会の大会にて、『後素集』に関する調査結果を発表した。また、最終年度に『源平盛衰記』の平家物語再編方法の分析に基づく研究成果を発表すべく、ヨーロッパ日本研究協会（EAJS）の国際会議の研究発表に応募し，採用された。その結果、2011年8月にエストニアのタリンで開催された国際会議で研究発表を行った。それ以外の研究成果も、コンスタントに研究会等で発表し、それらをまとめ共著に掲載した。

４．研究成果

⑴　『後素集』の『語園』利用

『後素集』と中国の類書『事文類聚』との比較を行っている過程で、それらに共通する漢故事のいくつかが、『事文類聚』を抜き書きして翻訳した本邦撰述の漢故事説話集『語園』（伝一条兼良撰）をもとに

したものである可能性が高いことを発見した。本研究の成果の一部は、22 年 9 月に学習院女子大学で開催された伝承文学研究会大会にて報告し、『伝承文学研究』60 号に論文が掲載された。

⑵ 『月庵酔醒記』の『金句集』利用

『月庵酔醒記』が引用する『金句集』がいかなるものであったのかという調査や、同じく『月庵酔醒記』が引用する『後鳥羽院番鍛冶次第』が『銘尽』のような刀剣伝書の類の中でどのような系統のものに近いのかということを調査し、考察した。今後はこういった、当時は秘伝とされてきたような資料や情報が、中世後期の百科全書的テキストの内部に取り込まれていく背景や、それらを取り込んだ百科全書的テキストの成立事情などを明らかにしたい。

⑶ 源平盛衰記』の再編方法の分析

百科全書的な作品と呼ばれる『源平盛衰記』が、既成の平家物語をどのような手法で再編していったのか、そして、そこにはどのような思想的・文化的基盤が横たわっているのかを解明するために、いくつかの場面を諸本と比較しながら分析してきた。その成果の一部については、2011 年 8 月にエストニアのタリン大学で開催されたヨーロッパ日本研究協会（EAJS）の国際会議で、「Transformation of *Heike monogatari*」と題する発表を行った。この研究は緒に就いたばかりなので、今後も継続する。

⑸ 『八幡愚童訓』の諸本研究

『壒嚢鈔』の編者に関わる研究として、行誉書写本『八幡愚童訓』の翻刻作業とその考察を行った。その中で、甲類系『八幡愚童訓』の諸本の構成比較をし、行誉書写本の特徴を明らかにした。また、『八幡愚童訓』甲本の未紹介資料である対馬本の翻刻を 2012 年 3 月に学内雑誌に発表した。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 4 件）

① 小助川元太、「対馬歴史民俗資料館宗家文庫蔵『八幡大菩薩御縁起愚童記　上巻』（翻刻）」、愛媛国文と教育、査読無、2012、44、pp.1-18.

② 小助川元太、「『後素集』の画題解説と漢故事和訳―『語園』との共通説話を中心に―」、伝承文学研究、査読有、60、2011、pp.111-124.

③ 小助川元太、「『源平盛衰記』における俊寛の最期――〈述懐〉に見る滅罪と救済の構想――」、軍記と語り物（軍記・語り物研究会）、査読有、45、2009、pp.48-61.

④ 小助川元太、「『後素集』の『帝鑑図説』利用――狩野一渓の画題理解に関する一考察――」、国語国文、査読有、78(6)、2009、pp.1-18.

〔学会発表〕（計 6 件）

① Ganta Kosukegawa, Transformation of *Heike monogatari* , 13th International Conference of the European Association for Japanese Studies, 26 August 2011, Tallinn University-Estonia.

② 小助川元太、「京都国立博物館蔵行誉書写本『八幡宮愚童訓』小考」、古典研究会、2011 年、6 月 18 日、広島大学.

③ 小助川元太、「『月庵酔醒記』の〈政道〉〈後鳥羽院番鍛冶次第〉」、月庵酔醒記研究会、2011 年 2 月 19 日、南山大学.

④ 小助川元太、「『後素集』の画題解説と漢故事和訳」、伝承文学研究会大会、2010 年 9 月 5 日、学習院女子大学.

⑤ 小助川元太、「僧の自伝の系譜――醍醐寺

所蔵『僧某（行誉）年譜』を端緒として――」、第 10 回名古屋大学文学部クリスマス研究集会「中世宗教テクスト研究の可能性」、2009 年 12 月 24 日、名古屋大学.

⑥ 小助川元太、「『源平盛衰記』における文覚流罪」、立命館大学日本文学会大会、2009 年 6 月 14 日、立命館大学.

〔図書〕（計 5 件）

① 服部幸造・弓削繁・辻本裕成編、三弥井書店、『中世〈知〉の再生―『月庵酔醒記』論考と索引』、2012 年、75-98（小助川担当）.

② 福田晃・中前正志編、三弥井書店、『唱道文学研究第8集』、2011 年、279-303（小助川担当箇）

③ 阿部泰郎編、竹林舎、『中世文学と寺院資料・聖教（中世文学と隣接諸学2）』、2010 年、610-636（小助川担当）.

④ 服部幸造・美濃部重克・弓削繁編、三弥井書店、『月庵酔醒記（下）』、2010 年、68-69・71-73・91-92・157・160・164-173・228-235（小助川担当）.

⑤ 福田晃・中前正志編、三弥井書店、『唱道文学研究第7集』、2009 年、281-302（小助川担当）.

６．研究組織

(1)研究代表者
小助川　元太（KOSUKEGAWA GANTA）
愛媛大学・教育学部・准教授
研究者番号：30353311
(2)研究分担者
なし
(3)連携研究者
なし